

著者名： 井上 公夫

書籍名： 歴史的な大規模土砂災害地点を歩く

出版社：丸源書店

ISBN： 978-4-9904459-5-9

判型： B5判

頁数： 264p. (全文カラー)

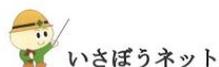
定価： 6000円+税

出版年月日：2018年6月20日

レビュー：私は、コンサルタントとして、現地調査に行くと、旅館やホテルでその地の市町村史や小説などを読み、その地域の自然条件や社会条件を知るとともに、歴史的な大規模土砂災害の事例を収集・整理してきました。「いさぼうネット」のシリーズコラム「歴史的な大規模土砂災害地点を歩く」として、50年に近い期間にコンサルタント業務などを通して収集・整理してきた事例（発生年月日と発生場所の特定できた災害）を紹介しています。

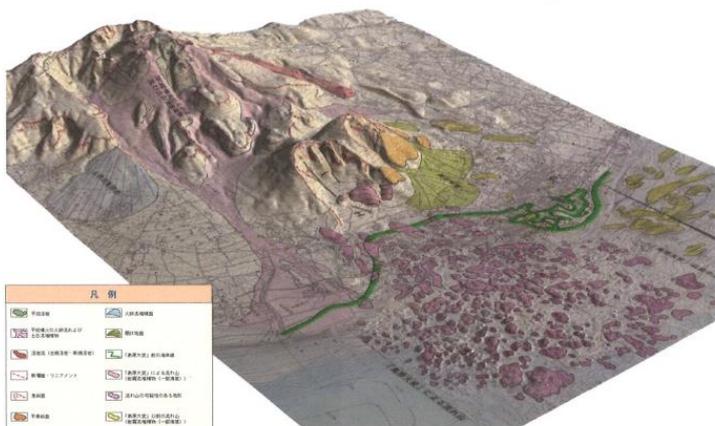
コラム1は、平成27年（2015）4月16日に初めて「いさぼうネット」に掲載されました。1箇月に1回のペースで原稿を書き続け、コラム50まで続ける予定です。本書では前半のコラム1～30を一冊の本として、発刊することとしました。

本書といさぼうネットのコラムの目的は、「過去の災害に学び・生かす」ことです。



## 歴史的な大規模土砂災害地点を歩く

井上公夫 著



### 表紙の説明

雲仙普賢岳は、平成2～7年（1990～95）の噴火前には寛政三～四年（1791～92）に寛政噴火を起こしました（コラム7）。噴火最末期の寛政四年四月朔日（1792.5.21）夜の4月朔地震によって、島原城下町の西側に聳える眉山が大規模な山体崩壊を起こしました。崩壊した岩石や土砂は流れ山を形成して、島原城下町南部と付近の農村を埋め尽くしただけでなく、有明海に飛び込み、大津波を発生させました。このため、多くの住民が生き埋めとなり、島原半島の沿岸や有明海対岸の熊本や天草の沿岸では、死者・行方不明者1万5000人にも達しました。この大規模土砂災害は「島原大変肥後迷惑」と呼ばれています。

表紙の図は国土地理院の沿岸海域地形図（1998年改訂版）の上に1998年撮影の航空写真を写真判読し、立体表現した雲仙火山の普賢岳と眉山の鳥瞰図です（井上、1999、2004；雲仙復興事務所2003、2004）。寛政四年の噴火と眉山の山体崩壊、および平成噴火の状況が表現されています。山体崩壊以前の海岸線（緑色線で表示）と比べて、現在の海岸線は眉山の山体崩壊の流れ山（ピンク色で表示）の流出によって、1kmも前に出ています。北部には古い流れ山（黄色で表示）も存在します。島原城は古い流れ山の上に築城されました。

本書では、筆者の今までの調査・研究結果から、日本各地で起こった歴史的な大規模土砂災害の事例を紹介しながら、地域住民が激甚な被災に対応し、どのように復興に努力してきたかを紹介します。